

# 自治体DXの枠組みと取組のポイント

DX : Digital Transformation

2021.1.22  
奥原

背景

**IT技術(プラットフォーム)の進展\*0**

- ・第一世代 メインフレーム/端末 1960~
- ・第二世代 サーバ/クライアント 1980~
- ・第三世代 クラウド/携帯 2000~

\*0 IDC Japan(2016)

Society5.0\*1

\*1 第5期科学技術基本計画(2016)

まずは、レベル1を目指すこと

**地域社会の変容(スマート化)\*3**

Maas

- レベル0 統合(連携)なし
- レベル1 **情報(データ)の統合(連携)**
- レベル2 決済の統合(連携)
- レベル3 サービス提供の統合(連携)
- レベル4 政策(経営)の統合(連携)

経済循環

サービス循環

\*3 スウェーデン  
チャルマース工科大学(2017)

自治体DX

誘導

先取

**「DX(デジタル・トランスフォーメーション)\*2**  
「単なるデジタル(digital)化を超越(trans)して、社会(業務)が「**変容(変革)**(formation)される」こと。

\*2 スウェーデン ウメオ大学のElic Stoteman(スルターマン)によって、論文「Information Technology and the good life」(2004)の中で、提唱されたコンセプト

**自治体行政の課題**

- ・「行政手続きオンライン利用率」世界最低組からの脱却
- ・Society5.0\*1への第一歩になるオープンデータ化(連携)の強力な推進

露呈

**(自治体)行政の変容**

- ・ 地域社会を向いた政策の横串し連携
- ・ 縦割り業務(部署)を超えた情報共有
- ・ 少数精鋭職員による多能工化・効率化

**行動様式(社会)の変容**

- ・ 居住価値の提供(5G付ゲストハウスなど)
- ・ 田舎での勤労価値の提供(古民家サテライト、ZOOM ID付与など)
- ・ 地域資源のオープンデータを駆使した生活価値の提供

GOOD LIFE

福島

新型コロナ禍

Society5.0\*1

加速